



**安心して子育てで
きる町づくりを目**

指し、細菌性髄膜炎から
幼い子ども達を守るた
めのヒブワクチン接種
の助成をすべきでは。

町長

インフルエンザ菌
b型、小児肺炎球菌のワクチ
ン接種については、WHOに
おいて、接種するように勧告
されているが、現在、国にお
いて法律上接種することが
位置付けられていないため、
任意の接種となっており、費
用は全額自己負担となつて
いる。

インフルエンザ菌b型の
予防については、平成20年12
月にヒブワクチンが販売さ
れたが、この、ヒブワクチン
を接種することにより、小児
の細菌性髄膜炎、敗血症、喉
頭蓋炎、肺炎、関節炎などの
感染症の予防に効果がある
とされている。ワクチンの予
防接種については、数回の接
種が必要であり、決して安い
金額ではないので、子育て世
代には大きな負担となつて

いると聞いている。



**乳幼児のための7
価ワクチンや高齢**

者のための23価ワクチ
ンを助成している自治
体は、県内で7自治体に
広がっている。
大木町としても、ぜひ
助成の検討を。

肺炎球菌ワクチン(7価) とは

肺炎球菌によって引き起
こされる病気を予防する小児
用のワクチンのこと。

肺炎球菌ワクチン(23価) とは

同様に肺炎球菌によって引
き起こされる病気を予防す
る高齢者用のワクチンのこと。

町長

肺炎球菌については、
免疫のはたらきが十分でな
い高齢者や乳幼児に様々な
病気を引き起こすと言われ
ている。

主な病気としては、肺炎、
気管支炎等の呼吸器感染症
や副鼻腔炎、髄膜炎などとな
っている。

現在、肺炎球菌による感染
を予防するワクチンについ
ては、小児用として7価肺炎
球菌ワクチンが平成21年10月
に承認され、本年2月から販
売開始となつている。このワ
クチンは、生後2ヶ月から9
歳までに、4回から1回接種
することが必要となつている。

また、高齢者や心臓病・呼
吸器疾患の慢性疾患、腎不全
等の基礎疾患等、重い疾患に
かかる危険性の高い方に対
して、23価の肺炎球菌ワクチ
ンが、昭和63年に承認され販
売されている。1回の接種で
5年以上の効果が期待でき
ることだが、個人の費用
負担が大きく、接種が広がら
ない結果になつていると聞
いている。

ワクチン接種によりこれ
らの病気を防ぐことが出来
れば、医療費の削減はもとより、
「間接医療費」と呼ばれる、子
供の通院・入院に伴い保護者
が仕事を休むことによつて
失う損益なども軽減するこ
とができ、経済的な点だけ考
えても有用といわれている。

そして、何より少子化が問
題となつている中、子供たち
の命と健康を守り、かけがえ
のない子供たち一人ひとり
を大切に育てていくことは、
重要であると考えている。

国においても、子宮頸がん
ワクチン接種については、平
成23年度予算概算要求で1
49億6000万円を盛り
込み、市町村の公費による接
種事業を支援する姿勢を示
している。

いずれにしても、これらの
ワクチンの公費助成につい
ては、国や県の動向を注視し
つつ、町単独の公費助成も視
野に入れながら、医師会の先
生方のご協力もいただき、調査・
研究していきたい。



ポリオワクチン接種診察